「携帯電話について考える」
－高校でのアンケート調査－

岐阜県立岩村高校　小川信和*
岐阜県立坂下高校　新川幸子*
岐阜県立益田清風高校　近藤泰子*
技術教育専修　湯川敏信

The Report of Teachers' Service Training Course
"Cellular Phones in Schools"
-Attempt to make Inquiries in Senior High Schools-

N. OGAWA, S. NIIKAWA[A], Y. KONDO[B], T. YUKAWA[C]
Iwamura Senior High School,
Sakasita Senior High School [A],
Mashita Seifu Senior High School [B],
Dept. of Technology Education, Graduate School of Edu.,
Gifu Univ. [C]

概要

携帯電話の普及は目覚ましく，その数は既に固定電話数を上回り，複数台所有する人も居る程である。携帯電話が個人の生活及び社会に与えた影響は多岐にわたり，決して小さくはない。児童・生徒を巻き込んだ携帯電話がらみの不幸な事件も後を断たず，使用はますます低年齢化をたどり，学校現場も種々の影響を受けないではいられなくなっている。**携帯電話を使用するにあたり，児童・生徒，学生，教員，子供を持つ親の立場で，矛盾のない姿勢・ポリシーが必要かつ重要である**が，そのためにも，まず，児童・生徒の携帯電話使用の実態を知るとともに，携帯電話を子どもに買い与えている親・保護者の考え方を知る必要がある。教員研修の一環として行った高校生とその保護者を対象とした携帯電話に関するアンケート調査の記録である。

Key words: 携帯電話，高校生，保護者，アンケート調査，意識の相違，使用実態，電磁波環境，学校改善

1　はじめに

携帯電話が現在の様に普及したのは，国の科学技術政策，通信事業者，製造販売業者の絶えざ

＊　高校教員は３氏とも，平成18年度12年目研修教員

る普及活動の結果であるといって過言ではない。もともと贅沢極まりない自動車電話が発端であり，使用料金は非常に高価であった。しかし，無線電話でありながら，電波法第39条に規定される無線従事者制度としては，省令で別に定めるところの例外扱いに相当し，顧客が無線従事者免許も無線局免許もとらなくて良いようになっている

。利用者を増やすために，1円や100円の端末［1］を売り出したりするなど，通常では考えられないことが行われ，話題となった。やがて，料金の値下げ競争なども起こり，通話料金も随分下がったが，固定電話並みには安くなっていないと思われる。

贅沢なものを普及させるという事自体，何かを犠牲にしなければ出来ない事であろうから，携帯電話の普及によって様々な弊害がでてくるのは当然なことである。例えば，通信事業・システムに起因する問題（インセンティブ制度，縛り，プリペイド式など），電磁波環境の問題（人に対するものと，機器に対するものがある），モラル・マナーに関する問題（例えば歩行中・自転車や自動車の運転中に使うなどの他，出会い系アダルト系サイトの問題などもある）など多岐に亘っている［1］。

児童・生徒を取り巻く物的・精神的環境は，携帯電話の出現だけで相当悪化したように感ぜられる。例えば携帯電話を介して出会い系やアダルト系などの有害サイトに興味本位あるいは不用意にアクセスしたり，メールを媒介手段とした交友関係が広まる等，児童・生徒に対する携帯電話使用の弊害［2］が聞かれるようになって既に久しい。それでも子どもの携帯電話保有率は下がるどころか，むしろ増え，ますます低年齢化が進んでいるように感じる。

子どもが携帯電話を持っているということは，買い与えた保護者がいるはずである。保護者は登下校時など，子どもの安全のために携帯電話を買い与えているようである。しかしいつも指摘されることであるが［3］，子どもが自室や外で携帯電話を使えば，保護者は子どもの交友関係もわからないし，アダルト系や出会い系にアクセスしていても知る術がない。一方，学校では児童・生徒の学習や試験などが，携帯電話によって妨げられないように管理上の問題と取り組む必要性が生じている。さらに，教員も家庭では親であり，子どもを学校に託す立場となる。ここでそれぞれの立場に利害と矛盾があっては，子どもはついてくるはずがない。**立場によらない普遍的なポリシーのもと**に子どもを導いて行く必要がある。研修の中心的課題として，このことが強調された。

子どもの携帯電話使用についてはいろいろなアンケート調査等が実施され，報道されているが，現場の感覚としても，生徒と親・保護者との間で現実認識の乖離が大きくなっているように思う。具体例を挙げれば，安全確保のために，保護者と連絡を取る手段として，子どもに携帯電話を持たせているのに，子どもは殆んど友達作りや友達との連絡用に携帯電話を使っているというようなことである。そこで，文献［4］で詳述しているが，この問題を子どもは勿論，保護者にもっと認識してもらう意味でも，保護者を対象に加えたアンケート調査が必要であるとの結論に至った次第である。

アンケート作成の詳細は文献［4］に述べているが，本稿では執筆者らが勤務している高等学校3校（いずれも岐阜市以外）に就いて実施したアンケート結果を中心に報告したい。

以下本報告の構成は2でアンケート調査の目的と項目を示し，3で高校での実施結果について検討する。4はまとめである。なお，2と3は主に小川，新川，近藤が執筆し，概要，1及び4

の執筆並びに全体の構成と編集は湯川が担当した。

2　アンケート調査の目的と項目

2.1　高校の現状

・携帯電話の所持率は100% には達していない
・高校入学祝いに与えられる事が多い
・(料金の安い) メールによるコミュニケーションが直接対話を阻害している
・手もとに携帯電話がないとパニックになる依存症の存在
・(使用料を稼ぐために) 働く事は良い事であると考える傾向
・親は子どもの携帯電話使用に関与しない・していない，使用料のみに関心を示す傾向，またどの様な使い方をしているか知る術がない
・問題サイト：県立高校掲示板の存在

2.2　アンケート調査の目的

・生徒の携帯電話使用の現状を把握する
・生徒の携帯電話使用について，保護者の考えを知る
・生徒と保護者の考え方の違いを保護者に伝えたい
・保護者の責任感の喚起
・携帯電話使用における危険性の認識を生徒，保護者に促す

2.3　アンケート項目

・生徒用

1 携帯電話を持っていますか。
2 携帯電話は，いつ頃から持っていますか。
3 初めて持った携帯電話は誰に購入してもらいましたか。
4 携帯電話を持った最大の理由は何ですか。
5 携帯電話を主にどのように利用していますか。
6 携帯電話でのメールのやり取りは誰とすることが多いですか。
7 携帯電話をいつ，どこで使用しますか。(複数解答可)
8 携帯電話の使用金額は１ヶ月いくらですか。
9-1 携帯電話でトラブルに巻き込まれたことはありますか。
9-2 被害を受けたトラブルについて具体的に教えてください。
10-1 携帯電話を通じて知り合った人はいますか。
10-2 携帯電話を通じて知り合った人とは１日どれくらい電話やメールをしますか。
10-3 携帯電話を通じて知り合った人とは会ったことはありますか。
10-4 あなたはそのような形で出会うことに対してどのように思いますか。
11-1 携帯電話はあなたにとってどんなものですか。
11-2 携帯電話を持っていないとどんな気持ちになりますか。

11-3 登校後，携帯電話を持っていないことに気がついたらどんな行動をとりますか。
12 携帯電話を持つことによるプラス面はなんだと思いますか。
13 携帯電話を持つことによるマイナス面はなんだと思いますか。

・保護者用
1 携帯電話を持たせていますか。
2 携帯電話は，いつ頃から持たせていますか。
3 最初の携帯電話は誰のために購入しましたか。
4 携帯電話を持たせた最大の理由は何ですか。
5 携帯電話を主にどのように利用していると思いますか。
6 携帯電話でのメールのやりとりは誰とすることが多いと思いますか。
7 携帯電話をいつ，どこで使用していると思いますか。
8 携帯電話の使用金額は1ヶ月いくらですか。
9 お子様の携帯電話の使用に関して危険があると思いますか。
9-1 お子様から携帯電話がらみのトラブルに巻き込まれたと聞いたことはありますか。
9-2 お子様が被害を受けたトラブルについて具体的に教えて下さい。
10-1 携帯電話を通じて知り合った人がいると思いますか。
10-3 携帯電話を通じて知り合った人と会ったことがあると思いますか。
10-4 保護者としてそのような形で出会うことに対してどのように思いますか。
11-1 携帯電話はお子様にとってどんなものだと思いますか。
12 携帯電話を持たせることによるプラス面はなんだと思いますか。
13 携帯電話を持たせることによるマイナス面はなんだと思いますか。

以上が今回の研修で作成された質問項目である。選択肢はここでは省略している。なお，保護者には「お子さまの性別」,「保護者の年代」も問うことにした。

その後，各学校での了承の下に，(必要ならば修正や削除等も受け入れて) これに基づきアンケート調査を実施し集計する事とした。

各高校の集計結果を処理・検討し，まとめを作成する。

携帯電話使用に関する生徒・保護者・教員の共通理解を図る資料として各研修高校に提出することとした。

3　高校でのアンケート調査の結果と考察

3.1　集計結果と考察

アンケートに回答した生徒，保護者ともに，携帯電話所持率はほぼ100% であった。

携帯電話は，高校入試の合格祝いや高校の入学祝いの贈物の定番となっているようである。

小学生の時から携帯電話を持っている生徒がいるが，**その保護者からの回答率はよくなかった**。このことから，かかる生徒の保護者の，**子どもに対する関心の低さや，コミュニケーション不足**が感じられる。(Fig. 1)

保護者の大多数が，子どもに携帯電話を持たせた理由を，「**家庭や学校との連絡**のため」と考

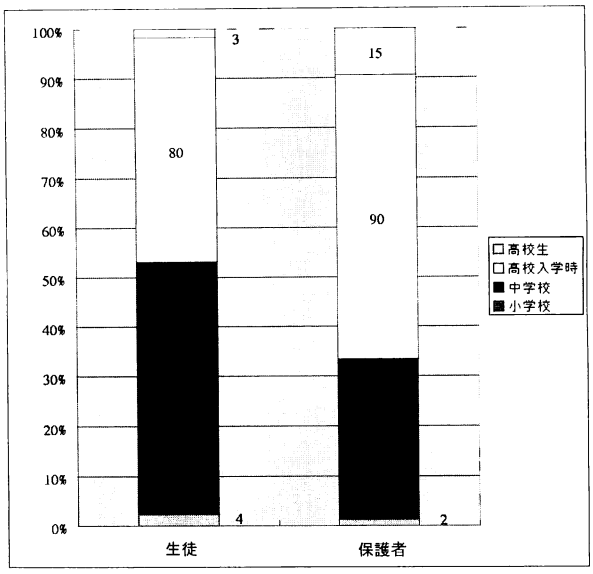

Fig. 1 携帯電話はいつ頃から持っていますか

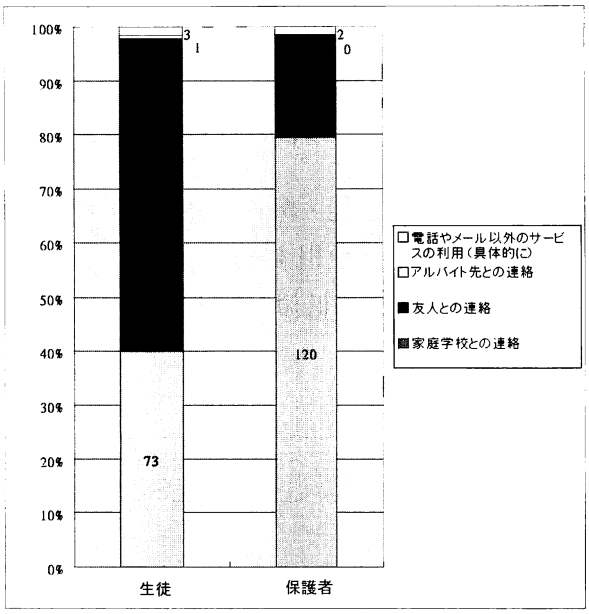

Fig. 2 携帯電話を持った最大の理由は何ですか

えている。これは，3校とも登下校に公共交通機関を利用する生徒が多いためであると考えられる。しかし，多くの**生徒は「友人との連絡」**を主な理由にあげており，**保護者と生徒の意識の差が判明**。(Fig. 2)（保護者は甘いのかもしれない。与えなければ仲間外れに？わかっていて，仕方なく？）

携帯電話の主な利用目的としては，メールが圧倒的に多かった。携帯電話事業者（会社）の料金設定としてメールは安価であることや，無料のサービスを利用している生徒が多いことによるものと思われる。後の設問から１ヶ月の使用金額が低い生徒ほど，メール利用回数が多いことがわかった。

生徒，保護者ともにメールは友達間で行われているという共通した認識があった。校内での

様子を見ていると，生徒が友達間で頻繁にメール交換する裏には，それが**友達と自分とを繋ぐコミュニケーションの手段**としているように感じられる。両親を含め**家族**とのメールについては，**事務連絡的**な内容であると考えられる。

多くの**保護者**は，生徒の携帯電話使用は，「学校の休み時間」や「帰宅してから使用している」と考えているが，実際の**生徒達**は，「トイレ」や「お風呂」，「授業中」など，ありとあらゆる場面で使用しており，**意識の差**を感じた。(Fig. 3)

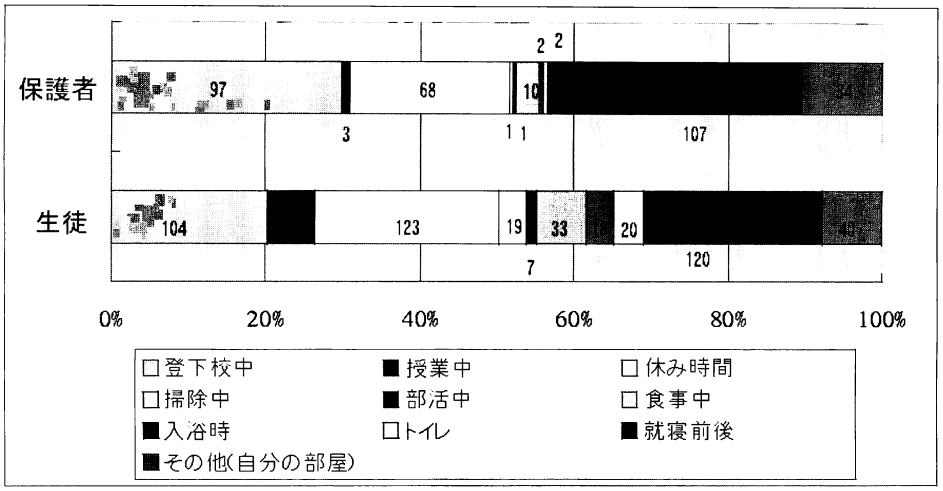

Fig. 3 携帯電話はいつ，どこで使用しますか

1ヶ月の携帯電話使用金額の回答は，生徒・保護者ともに9,000円未満が一番多く，生徒は1万2千円の割合も高いが，これは保護者が負担する額を決めて，お小遣いなどで補充させているのではないかと思われる。先に述べたが，低額な生徒ほどメール使用が多いことがわかった。(Fig. 4)

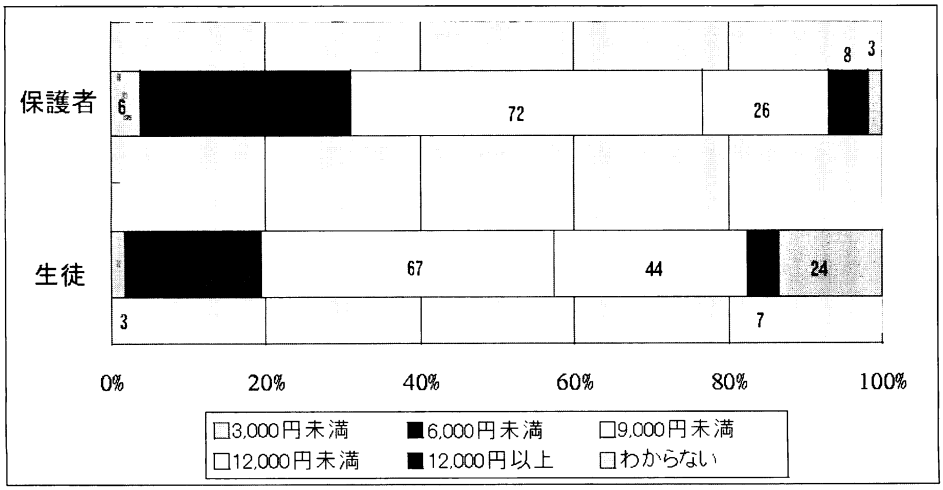

Fig. 4 携帯電話の使用月額はいくらですか

保護者が生徒の携帯電話使用に関して**危険**を感じている割合には，**地域差**がみられた。**1校は保護者の半数以上が危険だと感じ**ているのに対し，**別の1校は危険を感じていない保護者が半数以上**であった。(Fig. 5)

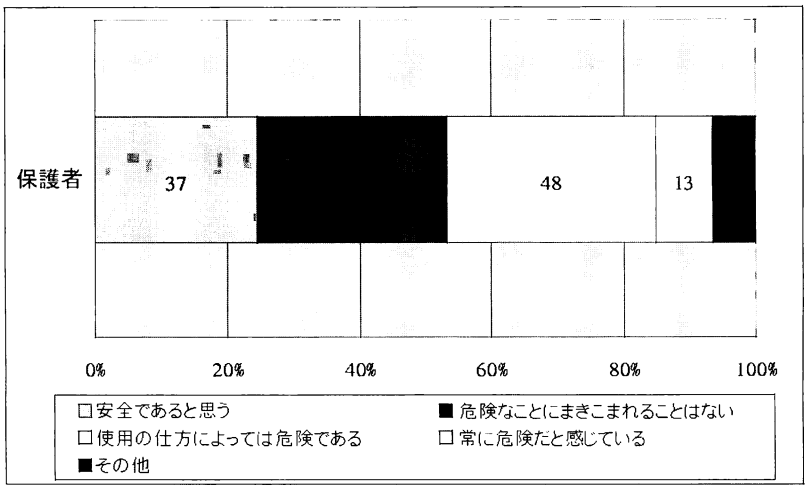

Fig. 5 お子様の携帯電話の使用に関して危険があると思いますか（保護者のみ回答）

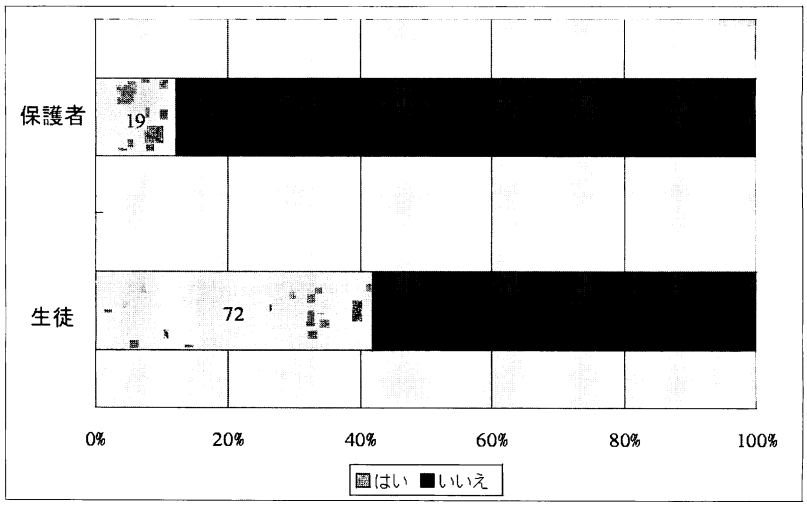

Fig. 6 携帯電話を通じて知り合った人はいますか

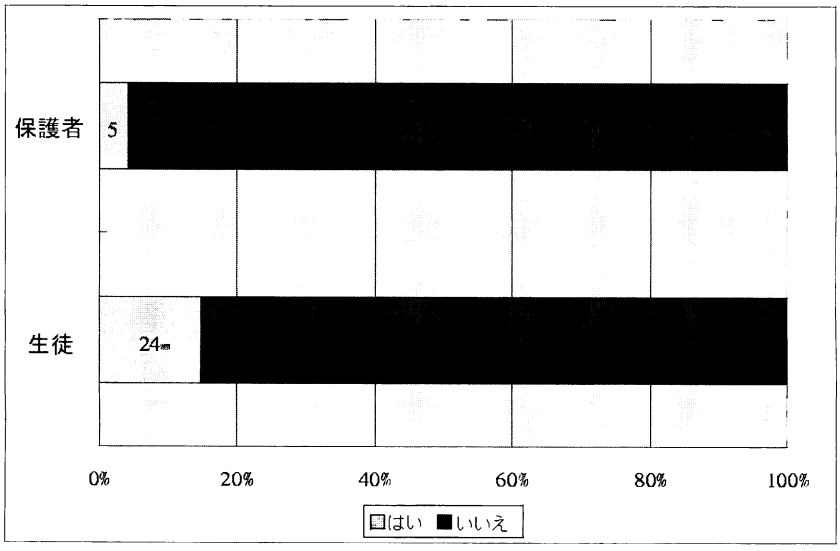

Fig. 7 携帯電話を通じて知り合った人と会ったことはありますか

「携帯電話を通じて知り合った人がいる」と答えた**生徒**が**40%** を超えるのに対し，**保護者**は**10%** 程度であった。**子どもの携帯電話の使用状況を保護者が把握するのは，かなり難しい**ということが判明した。ただし，友達からの紹介相手も含まれているため，全く知らない人と出会っているのはごく少数であると思われる。(設問の仕方が漠然としていたことが反省点となった。)(Fig. 6)

生徒が携帯電話を通じて知り合った人と会う割合は，半数以下になっている。保護者が知っている場合も一部見受けられた。(Fig. 7)

携帯電話を通じて知り合った人とのメール連絡回数が意外と多く，学校での友人関係が希薄で，学校外に交友関係を求める生徒が増加しているように感じられる。

「携帯電話を通じて出会うこと」に対しては，**生徒，保護者**ともに**半数以上が「いけないこと」**だと答えているが，「いいと思う」と答えている生徒も40% いる。

これは先に述べたが，友人の紹介も含まれているため，全く知らない人と出会うことについて答えている生徒は少ないと思われる。しかし，**学校内の交友関係**を見てみると，**うわべだけの付き合い**をしている生徒が多い。そのため，**携帯電話で気楽に友達を見つける**背景には，**真の友人関係を築くのが煩わしい**と考えている生徒が多いのではないかと思われる。こういった**現代の友人関係の希薄さ**を，**友人が増えるのでいいと思う，という保護者の回答**からも感じられた。(Fig. 8)

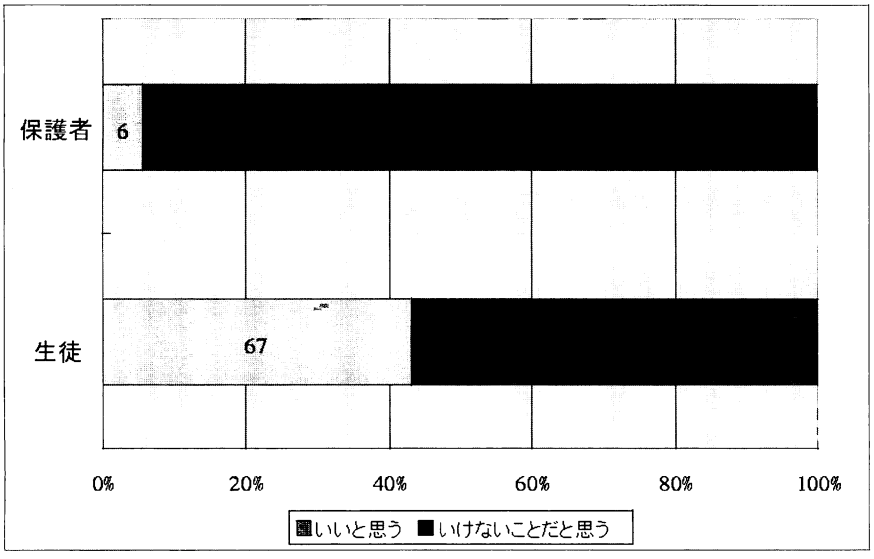

Fig. 8 携帯電話を通じて出会うことに対してどのように思いますか

・ **生徒：いいと思う**－友達の紹介だから大丈夫，お互いが同意しているのだから大丈夫，友達が増やせる，同じ趣味を持った人と話せる，色々な人と出会える，色々と発散できる，見目ではなく内面から知ることができる，自己責任だから自由だと思う，出会い系でなければ大丈夫

・ **生徒：いけないことだと思う**－危険である，トラブルが起こる可能性がある，殺されるかもしれない，犯罪に巻き込まれるかもしれない，相手がどんな人物かわからない，責任がとれない

・ **保護者：いいと思う**－友達は大切，他校の生徒と交流できる，子どもを信じたい，友達が増

えることはいいことだ

・ **保護者：いけないことだと思う**－危険である，今いる友達と仲良くしていけばよい，事件や事故に巻き込まれる，見えない相手と話していることが真実なのか嘘なのか分からない，親が子どもの交友関係を把握しきれない，今の若者は軽い気持ちで人と付き合っていることが心配，道徳的に良くない

生徒の半数以上，保護者もほぼ半数が，携帯電話は「絶対に必要」と答えている。先に述べたが，「携帯電話を持った最大の理由」として，保護者は子どもとの連絡手段として必要であると考えているが，生徒は友人との連絡目的として必要であると考えている。しかし，**アンケート前の予想に反して，なくても平気という回答も多かった。**(Fig. 9)

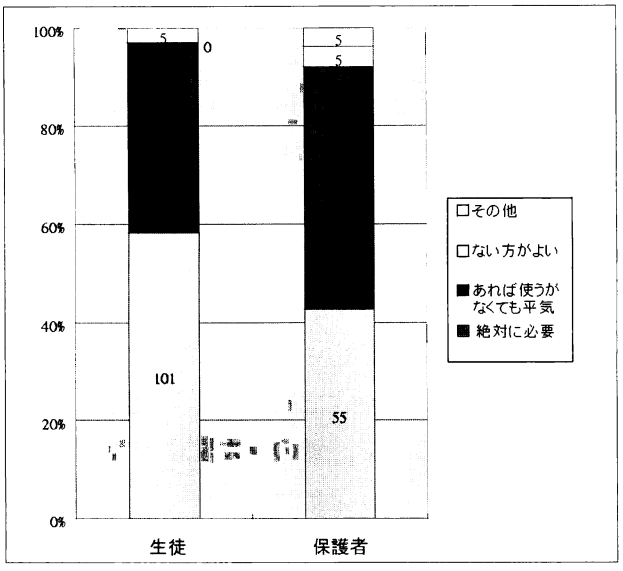

Fig. 9 携帯電話はあなたにとってどんなものですか

携帯電話を持っていないと「**落ち着かない**」，「**不安になる**」，という回答が半数以上であったが，登校後，携帯電話を持っていなくても，ほとんどの生徒がいつも通りに授業を受けられると回答している。食事中や入浴中なども使用している生徒がいることから，携帯電話に依存して生活している傾向にも思えたが，「絶対身につけていなければならないものである」と考える生徒はほとんどいなかった。しかし，少数であるが必ず手にしなくてはいられない生徒がいるのも現実であった。(Fig.10)

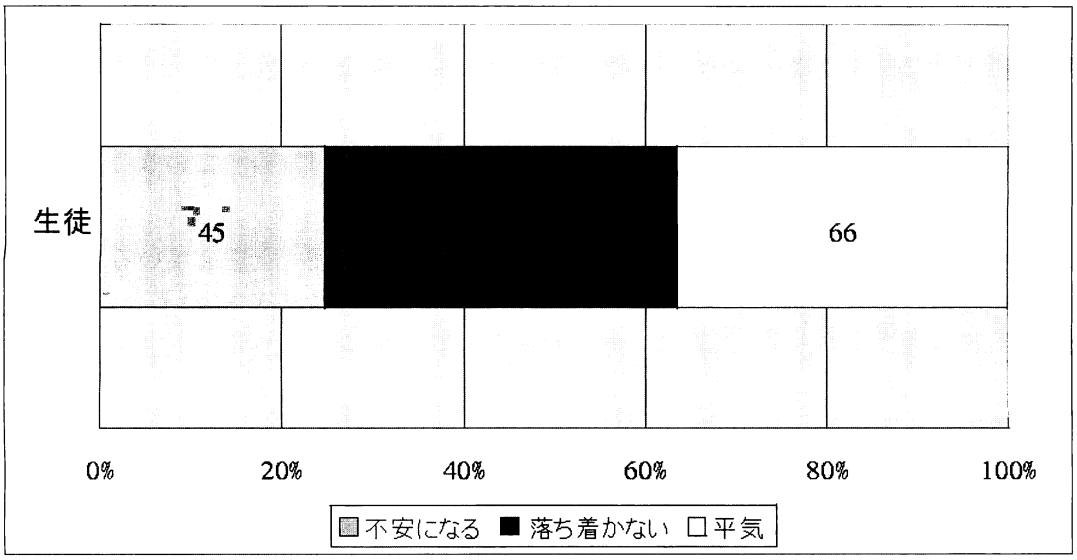

Fig.10 携帯電話を持っていないとどんな気持になりますか

携帯電話を持つプラス面，マイナス面については，生徒，保護者ともほぼ同じような回答率となった。

プラス面については，「情報収集に利用している」と回答した**生徒**が意外に多かったが，これは人の噂を書き込むページを見ていることが含まれている。実際にこれがもとでトラブルが発生した学校もあり，**人の噂に振り回される中で，真の交友関係が築きにくい環境**になっているのがわかる。また，**保護者**の「コミュニケーションが取りやすくなった」という回答からは，**顔を見て声で言葉を伝えるコミュニケーションが取りづらくなっている親子関係**が多いと感じた。

マイナス面については，**保護者**は支出のことを挙げている。**多くの生徒が，携帯電話購入時に約束した金額を超えて使用している**ためと考えられる。また，**生徒**の回答からは，「束縛されている現状」，「トラブルに巻き込まれる現状」があることがわかる。しかし，「授業と休み時間の区別がルーズになる」と回答した生徒も意外と多かった。これは，**授業中における携帯電話使用を教員が強く指導している結果**でもあると受け止めた。

3.2　教員研修としてのアンケート実施のまとめ

・今回掲げたアンケート調査の目的については，今回のアンケート結果から，ほぼ達成できたと考えている。

・このアンケート結果は，各学校において携帯電話使用に関する生徒・保護者・教員の共通理解を図る資料として各研修高校に提出し，活用したいと考えている。

・携帯電話が生活必需品となっている現代においては，携帯電話が原因となった悲惨な事件や，トラブルが全国的に多発している。また，携帯電話の電磁波による危険性を考えた行動をとっている利用者は少い。今回，この研修講座を受講したことにより，生徒や保護者への携帯電話に関わる様々な危険啓発の役割を，学校が担っていかなければならないことと強く感じた。

4　おわりに

本報告では「携帯電話を考える」というテーマで教員研修を行うにあたり，高等学校における携帯電話の使用実態を知るためのアンケート調査を行い，結果をまとめ，考察した。

携帯電話の児童・生徒の使用は避けられず，使用者の低年齢化が進行しており，児童・生徒の使用に伴う弊害が指摘され，痛ましい事件も報道されることが珍しくない。子どもの携帯電話の使用に対する責任は保護者にあるが，物質文明の進歩がもたらす社会の変化に人心も適応不良を起こしているなかで，携帯電話の持つポータビリティ（可搬性）という特長自体が問題解決を困難にしており，保護者としても問題を認識していても為す術がないというのが実状であろう。

科学技術振興による物質文明の発達は人の労働を軽減してくれるが，その**出来た余裕を如何に使うか**という大事な別れ道で，行く道の選択を誤っていると思われる。世は更なる**利便性と利潤の追求**に明け暮れ，**物や貨幣ではかる事の出来ない精神向上の道**は全く隠され，“人は「パン」のみにて生きる動物”かの如くなっている。携帯電話の弊害を防ぐ特効薬の処方は迂遠に見えても「**人格の尊厳**」を重んじる**人を育てる**教育の徹底以外にないという思いを益々強くするのである。

（参考文献）

[1] Wikipedia「携帯電話」.「日本の社会現象」の項目など参照 .

[2] バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守る研究会「バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守るために」最終報告書　平成18年12月　警察庁
http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen29/Virtual.htm

[3] 湯川敏信 ,“「携帯電話について考える」を実施して”, 岐阜大学大学院教育学研究科 ,“教師教育研究第2号”, 232-239（2006）.

[4] 湯川敏信 ,“「携帯電話について考える」- 子どもを守るために -”, 岐阜大学大学院教育学研究科 ,“教師教育研究第 3 号”, 153-161（2007）.